

地域医療への貢献と最先端医療を両輪に

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 羽藤直人

当院では1983年に世界で初めて人工中耳の臨床応用を行いました。現在は、聴覚を失った方の耳に人工内耳を埋め込むことによって、日常生活では困らない程度の聴覚を取り戻すことができる時代になっています。愛媛県では当院が唯一の人工聴覚器埋め込み手術の認可施設であり、関連施設と連携して、手術から患者さんの療育、リハビリテーションまでを行っています。また、新しいコンセプトデザインで人工聴覚器の開発にも取り組んでおり、まだ数年はかかると思いますが、難聴患者さんのために製品化を目指しています。

私は研究・教育・臨床のバランスを重視しています。日々の診療を大切に、患者さんの治療をしながら、病態解明や新しい治療法開発を行い、それらを未来の患者さんへ還元していく。同時に、耳鼻科医の将来を担う人材の育成を行うことが重要であると考えます。新しい研究を行わなければ医療の進歩はないわけですから、愛媛から世界に向けて新しいエビデンスを続々と発信できるよう、若手の耳鼻科医をしっかり教育していきます。当教室は昔から風通しのよい明るい環境でしたが、今後も皆で助け合いながら魅力ある教室づくりを心掛けたいと思います。研究・教育・臨床のバランスというのは、時代の流れによって重み付けが変わっていきます。感覚をさらに研ぎ澄まし、常に修正をしながらバランスを取り続けていきたいと思っています。



PROFILE

はとうなおひと◎愛媛県出身、1989年愛媛大学医学部卒業、医学博士。1999～2001年スタンフォード大学留学、2008年に愛媛大学医学部准教授を経て、2014年から現職。専門分野は神経耳科学（主に鼓室形成術、顔面神経麻痺、人工聴覚器領域）。趣味はゴルフとセーリング。

患者が望む医療を提供できる地域医療体製造りと継続性

地域医療再生学講座 教授 久門良明

「地域医療再生学講座」は、深刻な医師不足や高齢化問題を抱える宇摩地区の医療再生を図るため、平成22年に愛媛県からの寄附により開設されました。宇摩地区の医師の皆さんは非常に重い負担を抱えながら、孤軍奮闘されています。様々な課題を解決するため、単に大学病院から医師を派遣するのではなく、宇摩地域の基幹病院と大学病院の連携を円滑に進めることが当講座の最大の役割と考えます。若い医師が地域でも専門医としてのキャリアをつめるシステム創りが必要であり、システムを「できるシステム」に変えなくてはならないと強く感じます。また、地域の医療機関とは勿論、行政との連携も欠かせません。四国中央市では、すでに市役所と保健所が脳卒中の医療連携に加わっており、これをモデルケースとしてアピールすることで、県下の他の地域でも同じような取り組みができればと思います。

教育面では、学生や若い医師の意識を地道に変えていく努力をしていきたいです。現場を担う医師として、地域医療の現状や重要性を伝えていきます。また、先輩医師としては、彼らに研究する気持ちを失わないでほしいと伝えたいです。物事を解決する手法というのは、研究する過程で学んでいくのではないのでしょうか。本質をつかむための努力を忘れないでほしいです。そして、教科書で勉強しなさいと伝えたいです。ネットでは全体像を掴むことが難しく、応用がきかなくなってしまう。研究マインドや好奇心を育て、物事を俯瞰的に捉える力を身につけてほしいと思います。



PROFILE

くもんよしあき◎高知県出身、1977年県立和歌山医科大学卒業。日本脳神経外科学会・日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会認定医、日本脳卒中協会愛媛県副支部長。1979年愛媛大学脳神経外科学講座に入局し、県立中央、県立今治、市立宇和島病院にも勤務。脳梗塞の基礎研究、脳卒中・脳腫瘍手術に専心、2014年から現職。